

特集 福島の復興を支える女性が つながり・活動を広げるための 「コミュニティづくり実践セミナー」実施報告

避難地域の復興と再生を進めていくためには男性だけでなく女性の参画が不可欠ですが、避難期間の長期化により、女性が主体となって活動している地域グループ（婦人会等）が休止や解散を余儀なくされている現状があります。

そこで、広く地域づくりに関する活動等をしている女性を対象として、地域コミュニティづくりに関する研修を行いました。地域おこし協力隊やボランティア等の活動をしている、これからの地域づくりの担い手となる若い世代（20代）の方の参加がありました。

なお、全6回のセミナー内容についての助言や、各回の進行・ファシリテート役などを2名のコーディネーターに依頼して実施しました。

- ・北村 育美氏（福島大学経済経営学類「ふくしま未来 食・農教育プログラム」研究員）
- ・新田真由子氏（福島大学ふくしま未来学推進室事務局 地域コーディネーター）※依頼当時

◆スケジュール

	日時/会場	内容
第1回	7月7日（土） ビッグパレットふくしま	【事前学習】 地域コミュニティづくりについて、学び・話し合う
第2回	8月5日（日） ①郡山市富田町若宮前応急仮設住宅 A集会場 ②富岡町文化交流センター、富岡町内（バス視察）	【現地視察】 被災者支援や復興のための活動をしている団体・グループの方の話を伺い、コミュニティづくりの現状や課題を見出す。
第3回	8月26日（日） 郡山商工会議所	【グループワーク①】 第5回模擬実践に向け、現地視察で見えてきた課題や取り組むべき内容について話し合う。
第4回	10月14日（日） 郡山商工会議所	【グループワーク②】 課題解決方法を吟味・検討し、解決のための模擬実践に向けて、話し合う。また、模擬実践の役割分担など詳細事項を決定する。
第5回	11月11日（日） 富岡町社会福祉協議会（第34回「福祉まつり」）	【模擬実践】 富岡町において、課題解決に向けた模擬実践を行い、課題やその解決方法を発信。来場者や参加団体・グループの皆様との交流を図る。
第6回	12月2日（日） 富岡町文化交流センター 学びの森	【成果発表】 これまでの学習や各班の実践活動成果等について共有し、今後の活動の参考とするための振り返りを行う。

《事業の流れ》第1、2、6回は合同で、第3～5回は2班に分かれて研修を行いました。



(1) 第1回 事前学習（講演は一般公開）

参加者：14名（ほか第1回のみ参加者12名）

内容：地域コミュニティづくりについての講演会を行いました。また、終了後に全6回参加希望者の顔合わせ（自己紹介）を行いました。

講演「地域づくりに携わった学生の実践事例から～湯川村等での取組～」(60分)

講師：岩崎 由美子さん（福島大学行政政策学類教授）



岩崎由美子福島大学教授による基調講演



全6回参加希望者の顔合わせ

参加者のふりかえり

- ・カーちゃんのカプロジェクトが成功した理由の中に、震災前から地域のネットワークが築けていたからという内容があった。今からでも遅くはないので、築いていくべきだと思いました。
- ・カーちゃんのカプロジェクトやあぶくまロマンチック街道の取組など身近な事例があり、自分事として考える機会になりました。私たちの復興応援隊の取組も、福島大学（災害ボラ、学生DASH）と関わり、「関係人口」も増えていると思うのですが、なかなか町内に広まっていかないという課題もあります。

(2) 第2回 現地視察

参加者：10名

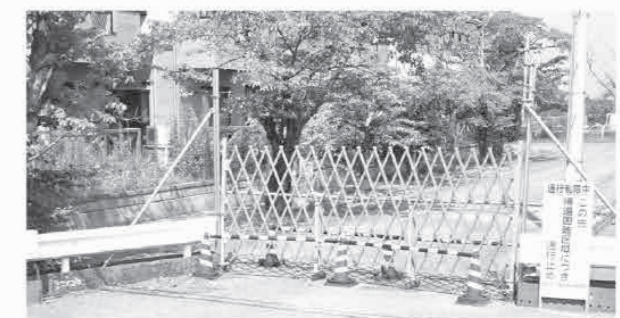
内容：被災者支援や復興のための活動をしている団体の方の話を聞き、コミュニティづくりの現状や課題を見出すため、講話及び現地視察を行いました。

講師：①吉田 晶子さん（富岡町社会福祉協議会郡山支所 総務係）

②青木 淑子さん（NPO法人富岡町3.11を語る会 代表）



被災当時から現在までの取組を話す吉田晶子さん



町内の立ち入り禁止区域のバリケード



富岡高校（文字は生徒の手形）



視察後のふりかえり、質疑に答える青木淑子さん

参加者のふりかえり

- ・吉田さんのお話から、『おだがいさまFM』で方言やなまりを積極的に使ったことが人々の癒しになっていることに感動しました。また、バラバラになってしまった町民をつなげてくれる電話帳と、それを見たときの町民の気持ちを考えると涙が出る思いです。
- ・町内視察、ただただ車で通るだけでは気がつかないこと、見えない町の歴史を感じることができ、貴重な機会でした。町の歴史、震災からの教訓を学ぶためには、青木さんたちのような語り人さんたちがいることの大切さを実感しました。

(3) 第3回 グループワーク①

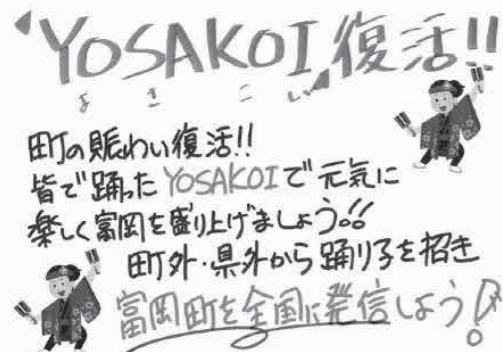
参加者：10名

(4) 第4回 グループワーク②

参加者：10名

内容：二班に分かれて現地視察で見えてきた課題や取り組むべき内容やその解決方法を話し合い、その内容を吟味・検討しながらテーマを設定し、課題解決のためのアイデアを出し合いました。

- ①【コミュニティづくりのためのテーマとその解決のためのアイデア】
- ②【富岡町の魅力】(白い箱)



課題解決のアイデアの一部



富岡町の魅力を白い箱に書いてつります

参加者のふりかえり

- ・「富岡でできそうなこと」を考えていたはずが、気づいたら自分のまちや地元にあっという間に繋がっていて、こんな面白い場所が日本中に広がったら楽しいだろうと思いました。
- ・今まで考えてきたことが具体的な形になってきて、「こんなことができれば楽しいだろうなあ」とワクワクしました。地域の方から自分たちが聞きたいこと、知りたいことをうまく引き出すにはという点が考えさせられました。
- ・自分たちが出したアイデアに対して、住民の皆さんがどのような反応をするか楽しみです。

(5) 第5回 模擬実践

参加者：8名

内容：富岡町社会福祉協議会主催「福祉まつり」に出展し、これまでの研修成果の展示と来場者へのヒアリングや意見交換などを行いました。

来場者へのヒアリングする項目は各班(A・B)の参加メンバーで協議して決定し、センター展示ブースへの来場者のほかに、他のブースに出張して活発な意見交換を行いました。



準備した掲示物を展示しました



課題解決のアイデア



出張ヒアリングの様子



全体会場でのブースPR

参加者のふりかえり

- ・震災からの時間の経過と共に課題であったことが「当たり前」、「しょうがないこと」としてそのままになってしまっていることが多いと感じた。
- ・普通の生活に戻ったかのように感じますが、やはり「普通」ではないことがたくさん目に見えないところにあるんだなとも感じました。もっと交流を深めて、みんながもっと深いところまでコミュニティづくりに関わることができればいいなと思います。
- ・いろいろなお話を聞きましたが、最終的に「楽しかった」と思え、笑顔が多くて良かったです。(私が一番楽しんでいました。)
- ・引き続き、町民一人一人の声を丁寧に聞いていくことを大切にしていきたいです。

(6) 第6回 成果発表

参加者：7名

内容：これまでの成果発表や振り返りを、各班と個人で行いました。

第2回の現地視察でお世話になった吉田さん、青木さんをコメンテーターとしてお迎えして、アドバイスなどをいただきました。



班での発表の様子



全体の記念写真

参加者のふりかえり

- ・「商店街に何も無いからこそ可能性が広がるんじゃない!」との青木先生の言葉が忘れられません。
- ・「コミュニティ」と一言で表現しても、その土地その地域に住む人たちが違うように、コミュニティの形も違って当たり前なのだと気がつきました。
- ・コミュニティの第一歩を考えながら今後の活動に活かしたいです。

事業の成果と今後に向けて

コーディネーターのアドバイスにより、富岡町をフィールドとして現地視察や展示を実施し、私たちが考えたことをダイレクトに避難地域の皆さんや支援者の皆さんに伝えることができ、より実践的な取り組みにつながる研修だったと思います。

とりわけ、第5回の富岡町社会福祉協議会「福祉まつり」(震災後再開2年目)におけるヒアリングでは、避難先での生活を続けるか、帰還をして生活をするかなど様々な思いに揺れ動く住民の皆さんの悩みに直接触れる機会を得て、コミュニティづくりの難しさを痛感したことも大きな経験になったと思います。

第6回の成果発表では、コメンテーターから、コミュニティづくりは地域住民や支援団体、行政が相互に関わって「つくる」もの等のアドバイスをいただきました。今後も参加された皆さんのより一層の活躍を期待しています。また、当センターも引き続き多くの皆さんと連携協力して福島復興に取り組みます。

センター図書室の「地域活動」「女性」に関するオススメ本



復興を取り戻す 発信する東北の女たち

荻原久美子・皆川満寿美・大沢真理／編
岩波書店 2013年【分類S / 1301 / フ】

2011年3月11日に起こった東日本大震災の地で、ひとり親、外国人花嫁などの社会的排除リスクの高い人々を支援する女性団体、ユニバーサルデザインの視点から仮設住宅を考え環境改善を図る建築家、農村や漁村で生きていくために新しい事業を起こす女性たちが、それぞれの活動を振り返りながら、どのような復興を目指すべきかを提言する一冊です。



ママたちを支援する。ママたちが支援する。「ふらっとスペース金剛」を立ち上げた女性たち

NPO 法人ふらっとスペース金剛／編
せせらぎ出版 2018年【分類 7104 / フ】

母親業の孤独に寄り添い、専業主婦の負担を減らし、子育ての悩みを打ち明けられる居場所づくりを目指してスタートした「ふらっとスペース金剛」。助成金の申請や子育てママの商品開発事業など、「サークル活動」から「働く女性の組織」へと、どのように変革させていったのか、立ち上げメンバーの苦労話とともに振り返ります。エンパワーメントのヒントがたくさん詰まっている本です。

問い合わせ 福島県男女共生センター図書室
電話:0243-23-8308 開館時間 9時～20時(休館日前日は17時)

コラム:「統計の数字から見る男女共同参画」

今回は、「福島県内の自治会長に占める女性の割合」についてご紹介します。県内で最も高い割合は、泉崎村で14.2%、次いで、昭和村8.3%、磐梯町8%でした。(右表参照) 女性自治会長が1人もいないと回答したのは、35市町村、対象者なしが2市町村でした。

女性の社会参画の割合を見える化することで、より女性活躍の促進を図ることを目的としています。企業において女性管理職を増やすだけでなく、地域の意思決定の場に女性が参画することも必要です。お住まいの市町村はいかがですか?是非、「見える化」サイトをご覧ください。

参考:内閣府男女共同参画局女性活躍推進法「見える化」サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html

順位	市町村名	女性割合(%)	実数(人)
1	泉崎村	14.2	15 / 106
2	昭和村	8.3	1 / 12
3	磐梯町	8.0	2 / 25
4	猪苗代町	7.3	8 / 109
5	郡山市	6.4	42 / 661

※実数(人)は、うち女性/自治会長数です。(H29.4.1現在)

● 福島県全体の女性自治会長の割合
167人(女性自治会長)
5,968人(自治会長) = 2.8%

● 全国の女性自治会長の割合
12,997人(女性自治会長)
234,289人(自治会長) = 5.5% (H30.4.1現在)

福島県からの お知らせ

「女性活躍応援ポータルサイト」に カジダン(家事男)サイトが オープンしました!

県では、新たにカジダンサイトをオープンし、男性の家事・育児・介護への参画に関するコラムや体験談などを紹介しています。

女性が活躍し、男女がともにその個性と能力を十分に発揮できる社会をつくるためには、男性の理解や積極的な参加が不可欠です。

今まで家事や育児等にほとんど関わってこなかったというあなたも、今後積極的に関わっていくことで、新たな発見や喜びを感じることができるかもしれません。これからの人生を豊かにするために、家事や育児等への関わり方を考えてみませんか。



「女性活躍応援ポータルサイト」カジダン
<https://www.kiratto-fukushima.jp/kajidan/>

問い合わせ 福島県男女共生課
電話:024-521-7188 FAX:024-521-7887

ふくしま カジダン 検索

研修室・宿泊室のご案内

当センターの研修室・宿泊室は、リーズナブルな料金で一般の方もご利用いただけます。出張や研修、法事、スポーツ少年団・大学のゼミの合宿などに利用可能ですので、是非、ご利用ください。

●研修室

研修室	定員(人)	男女共同参画を推進する活動(1使用単位)	その他の使用(1使用単位)
研修ホール	400	7,200円	14,400円
第1研修室	25	500円	1,000円
第2研修室	110	2,100円	4,200円
第3研修室	50	1,000円	2,000円

※他にも調理室や和室などの研修室がございます。

※1使用単位は、午前(9～13時)、午後(13～17時)、夜間(17～21時)の各々です。



研修ホール

●宿泊室

区分	室名	1人で使用する場合	2人以上で使用する場合
男女共同参画を推進するため研修室等を利用する(した)場合	洋室(ツインルーム) / 和室	3,000円	2,600円
その他の使用である場合	洋室(ツインルーム) / 和室	4,300円	3,900円

※当センター内のレストランにて、予約にて朝食・夕食の提供をしています。(料金別途)

※宿泊室内ではWi-Fi使用可能です。



宿泊室(洋室)



宿泊室(和室)

問い合わせ 福島県男女共生センター受付
電話:0243-23-8301
HP:<http://www.f-miraikan.or.jp/>

「いろいろな働き方を考える。」

HARIO ランプワークファクトリー

南相馬市小高区本町 1-87 (小高パイオニアヴィレッジ)
ホームページ: <https://lwf-odaka.owb.jp/>

HARIO ランプワークファクトリー小高は、耐熱ガラスを一つ一つ丁寧にピアスやネックレスに手加工するガラスアクセサリー工房として、2015年8月に南相馬市小高区に設立されました。

ここで働くランプワーカー(以下:ワーカー)は、ガラス加工の技術を身につけ、多様で柔軟な働き方で仕事と家庭を両立しています。

今回は、HARIO ランプワークファクトリー小高の運営をおこなっている小高ワーカーズベース代表の和田智行さんにお話を伺いました。

※ HARIO は、1921年創業の耐熱ガラス製品で世界的に知られる老舗ガラスメーカー。

「HARIO ランプワークファクトリー小高」 設立のきっかけ



お話を伺った和田さん

南相馬市小高区は、東日本大震災に伴う原発事故で避難指示区域となり、避難指示が解除されても若い人は戻らないと言われていました。それでも私は「魅力的な仕事があれば、住まなくても若い人は来る。」と考えていました。そんな時、南相馬市にボランティアに

来ていた HARIO のガラス職人の方と出会いました。HARIO では、2014年から耐熱ガラスの手加工技術を次世代に残すため、ガラスアクセサリー工房を国内にいくつか展開していると知りました。小高区で魅力的な仕事ができると思い、HARIO 社とライセンス契約し、ワーカー 1 人のガラスアクセサリー工房として始めました。

国内の他のランプファクトリーでは仕事量の調整が可能なことから、女性が働きやすい職場環境が創出されており、南相馬市においても女性がワーカーとして、働いています。

ランプワーカーの働き方

耐熱ガラスを加工する技術を身につける研修後、3か月間は見習い期間として時給制で働き、その後は成果報酬制になるため雇用という形ではありません。どれくらい働くかは家庭の状況等によるため、同じワーカーでも日によって違います。また、ガスバーナーが設置可能であれば、自宅でも作業ができるように

なっています。生産管理のため、働いた時間は把握しますが、働く時間はワーカーが決められています。

慣れてくれば短時間で作製でき、単価が上

がりますが、定期的に新しいデザインが出た時は、作製に時間がかかり、単価が下がってしまうことがあり、収入には波があります。長い目でみれば、ワーカーの技術は向上していますので、試行錯誤しながら、焦らず地道に続けてきました。

多い時は、10人のワーカーがいましたが、技術の習得には時間が必要で、ある程度の作品が作れるようにならないと収入にならず、家族の理解が得られないこともありました。現在は、5人のワーカーがいますが、うち1人は産休中です。

今後取り組んでみたいこと

耐熱ガラスは粘り気があり、細かい加工ができるため様々な表現が可能です。県内のニーズに応えられるような地元をモチーフにした独自のブランドを立ち上げたいと思っています。そのために、これからも働きたいと思ってもらえるような環境整備をしていきたいと考えています。

南相馬市は他の地域より多くの課題を抱えているかも知れませんが、様々な可能性もあると思います。私たちは、ものづくりを通して、自分たちが住みたい町をつくっていきたくです。



作業場の風景